

地域の皆さんと小田原市立病院との



# きずな



## 小田原市立病院 診療科紹介 外科

世界的なCOVID-19によるPandemicのなか、われわれ外科では自分たちの立ち位置を模索しながら奮闘しています。このなかで自分たちの導き出した結論は、悪性疾患（消化器癌）・救急疾患（腹膜炎、胆嚢炎、腸閉塞等）に対するパフォーマンスを落とさないということです。当科は千葉大学の外科医局出身の常勤5名（清家、亀高、牧野、深田、秋山）、同医局出身のローテータに自治医大からの医師を加え7人のチーム構成となっております。5年前にもこの“きずな”に外科部長として熱い思いを投稿しておりますが、チームはますますMatureに進化しております。当科の特徴を挙げてみます。

### 1) 対象疾患の守備範囲が広い。

消化器すべての癌、血行再建、炎症性腸疾患、腸閉塞・ヘルニア等の良性疾患、小児疾患など。

### 2) 24時間・365日体制である。

夜間休日にも常に2人の外科医が待機しており、フルタイムで緊急の患者さんに対し適切な手術を提供します。

### 3) チーム医療を確立している。

ナース、麻酔科、放射線技師、臨床検査科、病理診断科とも風通し良くDiscussionを行っています。その結果は術式決定や周術期管理にダイレクトに反映されています。

### 4) 手術への研鑽を怠らない。

病態はカンファレンスにおいて厳しく検討し、全国において定型的と考えられている術式を選択しております。当然の結果、腹腔鏡手術が定型手術となる疾患が増えています。手術に関し不可避である合併症発生時には原因究明をリアルタイムに行い適切な対処を迅速に行います。

西湘地区の地域がん診療連携拠点病院の外科として、日本外科学会、日本消化器外科学会、日本肝胆膵外科学会（A認定）、日本大腸肛門外科学会の認定施設であることを踏まえて日本最高レベルの医療を皆様に提供するべく日々研鑽を重ねております。常勤医が全員日本消化器外科学会の指導医であることはこの規模の病院ではまれであり、チームの学問への意識づけの高さを反映しています。全国学術集会における発表をも自分たちに課し、全国学会での扱われ方や全国からの医学生さんの見学数の増加によって、自分たちの努力の成果を医学界においては実感しておりますが、現場として地域の皆様にそれを還元していきたいと願っております（記：亀高）。



外科系診療部長  
せいけ かずひろ  
清家 和裕

外科部長  
かめたか ひさし  
亀高 尚

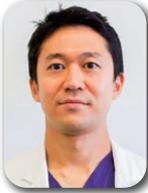


# 小田原市立病院 新任医師の紹介

R3.6.1

腎臓内科

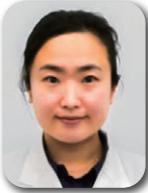
**濱野 直人**  
(はまの なおと)



総合内科専門医  
透析専門医  
腎臓指導医

糖尿病内分泌内科

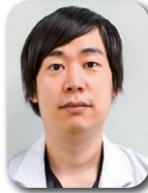
**上田 絢美**  
(うえた あやみ)



認定内科医  
糖尿病専門医  
内分泌代謝科専門医

呼吸器内科

**小野崎 翔太**  
(おのぎき しょうた)



呼吸器一般

呼吸器内科

**白取 陽**  
(しらとり よう)



呼吸器一般

消化器内科

**瀧島 和美**  
(たきしま かずみ)



消化器一般

循環器内科

**松田 泰紀**  
(まつだ やすき)



循環器一般

循環器内科

**橋村 美保**  
(はしむら みほ)



循環器一般

小児科

**坂田 雄祐**  
(さかた ゆうすけ)



小児科一般

小児科

**待鳥 航**  
(まちどり わたる)



小児科一般

小児科

**遠坂 崇**  
(とおさか たかし)



小児科一般

小児科

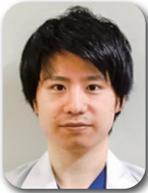
**小松 洋介**  
(こまつ ようすけ)



小児科一般

外科

**坂本 陽介**  
(さかもと ようすけ)



外科一般

整形外科

**佐々木 崇博**  
(ささき たかひろ)



整形外科専門医

整形外科

**川島 大輔**  
(かわしま だいすけ)



整形外科専門医

整形外科

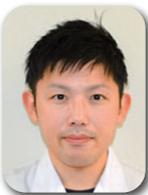
**藤森 翔大**  
(ふじもり たかひろ)



外傷一般

脳神経外科

**新垣 勇大**  
(あらかき ゆうた)



脳神経外科一般

脳神経外科

**提箸 祐貴**  
(さげはし ゆうき)



脳神経外科一般

皮膚科

**安田 綾子**  
(やすだ あやこ)



皮膚一般

皮膚科

**下山 奈穂**  
(しもやま なお)



皮膚一般

泌尿器科

**藤川 直也**  
(ふじかわ なおや)



泌尿器科指導医  
日本がん治療認定医  
泌尿器腹腔鏡技術認定

泌尿器科

**苅部 勇大**  
(かりべ ゆうた)



泌尿器一般

産婦人科

**石川 玲奈**  
(いしかわ れな)



産婦人科専門医

産婦人科

**湯本 亜美**  
(ゆもと あみ)



産婦人科一般

産婦人科

**櫻井 静**  
(さくらい しずか)



産婦人科一般

産婦人科

**田之井 有華**  
(たのい ゆか)



産婦人科一般

産婦人科

**荒川 聡美**  
(あらかわ さとみ)



産婦人科一般

眼科

**佐藤 佑**  
(さとう ゆう)



眼科一般

耳鼻咽喉科

**丸山 祐樹**  
(まるやま ゆうき)



耳鼻咽喉科一般

麻酔科

**繁田 正毅**  
(しげた まさき)



麻酔科標榜医  
麻酔科認定医

麻酔科

**盛 直博**  
(もり なおひろ)



麻酔科標榜医  
麻酔科指導医

救急科

**福嶋 友一**  
(ふくしま ともかず)



救急科専門医  
ICLSコースディレクター  
CLS指導者養成コースディレクター

救急科

**大新田 訓承**  
(おおしんでん のりつぐ)



救急疾患全般

今後ともよろしくお願ひします。

# 摂食嚥下支援チーム (SST:Swallowing Support Team) を立ち上げました

今年の4月から新たに摂食嚥下支援チームによる入院患者さんへの嚥下支援を開始しました。

チームによる支援は、入院中の患者さんで摂食嚥下障害が疑われたときに、主治医からの依頼で介入します。まず介入後は嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査で嚥下機能の評価を行い、その評価をもとに、嚥下リハビリの実施、理学療法、作業療法による食事関連姿勢、動作の練習、適切な食形態の調整、嚥下関連の看護ケアの指導、嚥下に関与する薬剤のチェック、安全な服薬方法の検討および指導等を行うことになります。

チームで介入することで、入院患者さんが誤嚥することなく、安全な食形態で食べることへの楽しみを感じていただけるよう、全力で取り組んでいきたいと思えます。

## チーム概要

チームは院内の多職種の専門スタッフで構成され摂食嚥下障害の治療や誤嚥の予防を目的に活動しています。患者さんのQOLを尊重しながら、嚥下、食事面から回復をサポートしていきます。

## チームの役割

- ・摂食嚥下障害を有する入院患者さんの、包括的な摂食嚥下アプローチおよび主治医、担当看護師への指導・提言
- ・多職種での連携の円滑化、個々の患者さんの栄養摂取方法の適切なゴール設定
- ・院内スタッフおよび患者さんやご家族への摂食嚥下に関する正しい知識の周知と啓蒙活動

## チームメンバー構成

- ・リハビリテーション科医師
- ・耳鼻咽喉科医師
- ・理学療法士
- ・作業療法士
- ・言語聴覚士
- ・摂食嚥下障害認定看護師
- ・薬剤師
- ・管理栄養士

各1名

新山 作業療法士

中山 言語聴覚士

佐藤 理学療法士

耳鼻咽喉科 徳留 医師



真壁 薬剤師

諸星 摂食嚥下障害認定看護師

リハビリテーション科 霜田 医師

上田 管理栄養士

## 活動状況

嚥下カンファレンス、チーム回診：毎週火曜日

嚥下造影検査（VF）：毎週火曜日

嚥下内視鏡検査（随時）

院内勉強会（適宜）

# 小田原市立病院 連携医療機関の紹介

## 医療法人社団 清水内科クリニック

### 理事長 清水典子先生

私がふるさとの小田原の地に落下傘のようにぽつんと開業してから、もう19年も経ってしまいました。地域に同門の先生は一人もおらず、研究室で長年相手にしていたのは顕微鏡越しの幹細胞と白血病細胞。開業には向いていない血液学が専門。

「何のために開業するの？」そう問われたとき「これからは世の中の片隅の誰かの役に立ちたいから」そう答えましたが、仕事を始めてみてわかったことは、一人ぼっちでは何もできない。ということでした。

開業医は食後のコーヒータ임을共にする医局や仲間を持たない孤独な存在です。

患者の診断や治療についてコンサルテーションすることが容易でないと次第に消極的になってしまいがちです。けれど有効な地域医療の連携システムがあると、相談する道が開けてきて、医療者としての勇気が湧いてきます。

今の道を選んだ時「君はみえるものしかみていないと意識して仕事をしなさい。」と恩師から言われました。みえないもの、みていないものをどうやって見つけたらいいのだろうと随分反芻しましたが、それには「繋がり」が道標になってくれることを今更ながら実感しています。

患者さんの訴えに耳を傾け、考え、想像し、模索する。そのうえで必要な医療の方向を考え、専門の先生方との連携によって解決しようとする。それこそが私の患者さんへの誠実な対応であると、19年前の恩師の言葉への回答が漸く見つけられました。

田舎の小さなクリニックの医師ですが、私の仕事は、痛みや苦しみに耐えている患者さんが「よく生きる」ための手助けをすることだと思っています。

市立病院の専門外分野のカンファレンスにも参加し、顔の見える繋がりを持ち、自信をもって患者紹介ができることは私の日々の診療の後ろ盾になっています。お忙しい業務の中、いつも指導し助けて下さる先生方に本当に感謝しています。

コロナ禍の診療。緊張が続く感染予防、発熱外来の日々。そしてワクチン住民接種が始まります。これからも市立病院の先生方と連携して、微力ながら地域医療に尽くしていきたいと思っています。

よろしく願い申し上げます。



## 医療法人社団 清水内科クリニック

〒250-0002  
神奈川県小田原市寿町2-7-6  
☎0465-35-3500

